

高岡市の地域公共交通に関するアンケート調査結果

1. 実施概要

- 対象：16歳以上の市民2,000人
- 抽出方法：住基データに基づく地区別の男女構成比および年齢構成比により抽出。
- 方法：アンケート票の郵送、同封の返信用封筒にて回収。アンケート調査票にQRコードを添付し、Webでの回収も併用。
- 調査期間：令和7年10月16日（木）～11月30日（日）

2. アンケート回答状況及び回答属性

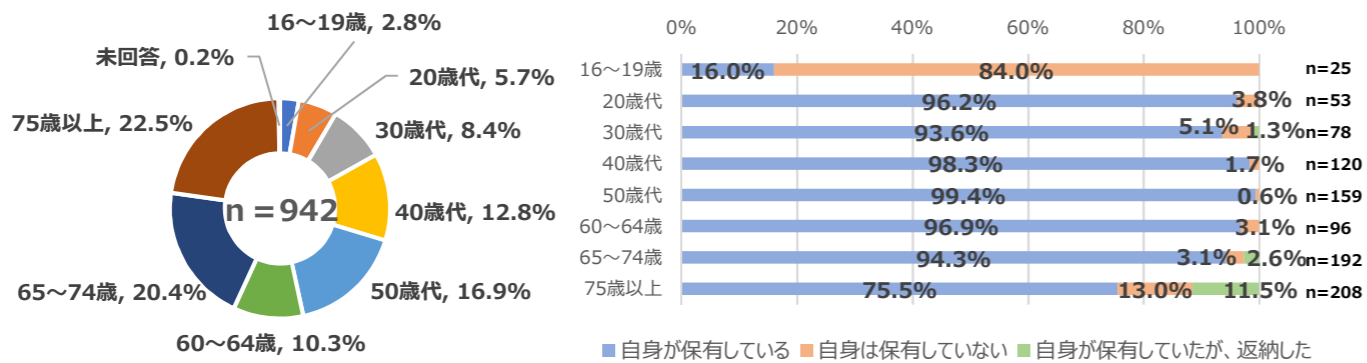
2-1. 回答者数、回答率

- 配布した2,000人のうち942人から回答があり、回収率は47.1%

	配布数(人)	回収数	回収率(%)
今回(R7年度)	2,000	942(うちWeb239)	47.1
前回(R6年度)	2,000	821(うちWeb183)	41.1

2-2. 回答者の「年齢構成」「免許保有率」について

- 「年代別の人口構成比」に応じてアンケートを送付した。
- 回答者の年齢構成は、65歳未満の現役世代が56.9%、65歳以上が42.9%となっている。
- 免許証保有率は、20代～74歳では9割以上、75歳以上では8割程度となっている。75歳以上の世代で免許を保有していない方のうち、約半数以上が免許を返納した方である。

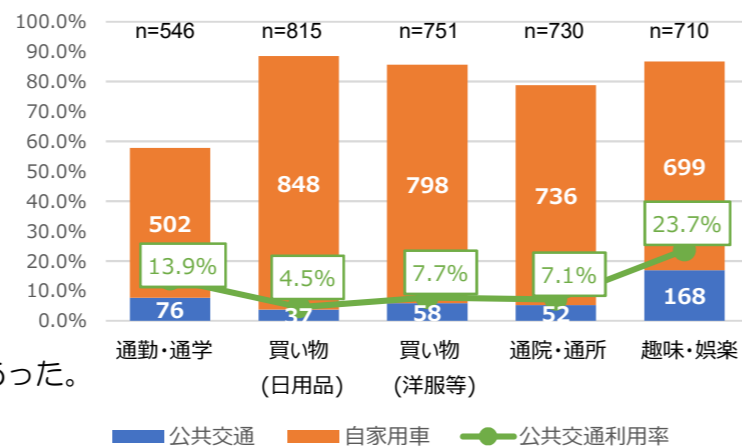


図：回答者の年齢構成

図：免許証の保有状況

3. 公共交通利用状況、公共交通利用率について（全体及び目的別利用率）

- 全体の公共交通利用率は、11.0%（令和6年度調査：12.7%）
- どの移動目的においても、車での移動が多く、7割以上を占めている。
- 公共交通利用率が最も高い移動目的は、「趣味・娯楽」の23.7%、次いで「通勤・通学」の13.9%であった。
- 一方、公共交通利用率が最も低い移動目的は、「買い物（日用品）」の4.5%であった。



図：公共交通利用率（目的別）

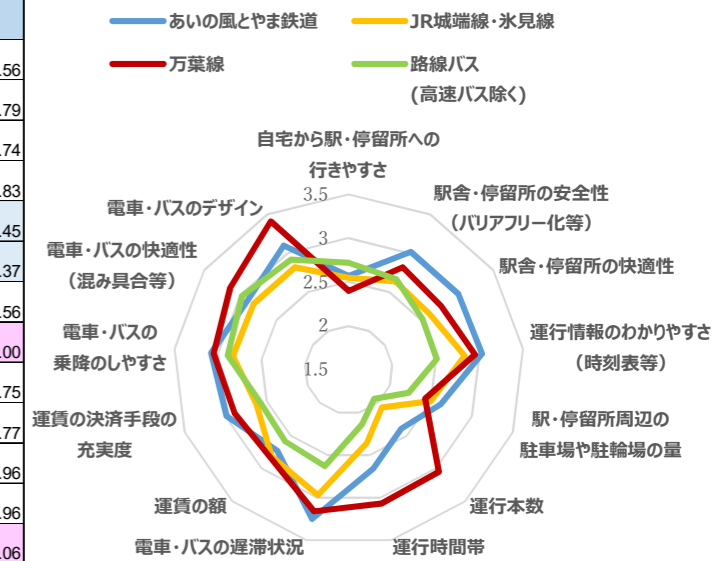
※複数回答あり

4. 公共交通利便性満足度評価

- 「運行本数」、「運行時間帯」については、各公共交通における評価に差がある。
- 「遅滞状況」、「デザイン」の評価は高い傾向である。

	あいの風とやま鉄道	JR城端線・氷見線	万葉線	路線バス(高速バス除く)	平均値
自宅から駅・停留所への行きやすさ	2.57	2.55	2.40	2.72	2.56
駅舎・停留所の安全性(バリアフリー化等)	3.02	2.64	2.82	2.67	2.79
駅舎・停留所の快適性	3.02	2.62	2.78	2.52	2.74
運行情報のわかりやすさ(時刻表等)	3.03	2.83	2.95	2.51	2.83
駅・停留所周辺の駐車場や駐輪場の量	2.62	2.50	2.43	2.23	2.45
運行本数	2.40	2.07	3.05	1.94	2.37
運行時間帯	2.66	2.36	3.07	2.14	2.56
電車・バスの遅滞状況	3.25	2.97	3.16	2.63	3.00
運賃の額	2.73	2.82	2.84	2.59	2.75
運賃の決済手段の充実度	2.99	2.62	2.89	2.57	2.77
電車・バスの乗降のしやすさ	3.08	2.83	3.05	2.89	2.96
電車・バスの快適性(混み具合等)	2.90	2.82	3.14	2.98	2.96
電車・バスのデザイン	3.10	2.82	3.41	2.92	3.06
平均	2.87	2.65	2.92	2.56	2.75

図：公共交通機関別満足度

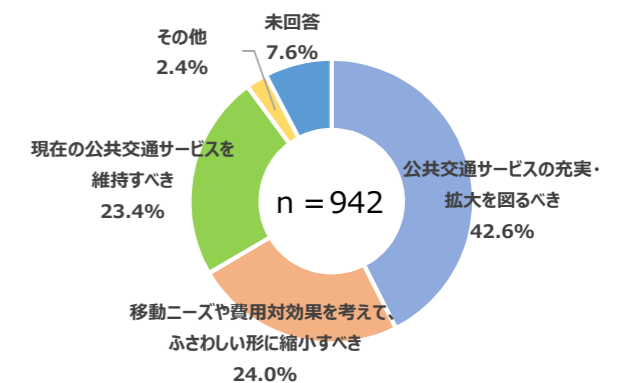


図：公共交通利便性満足度評価

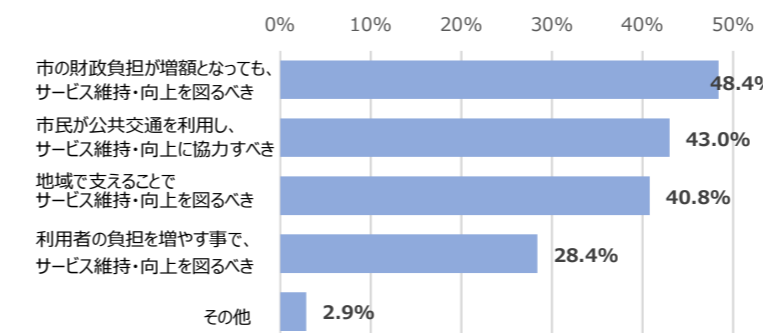
【満足度評価の方法】
各公共交通に対する13項目の設問について、「大変満足」を5点、「満足」を4点、「普通」を3点、「やや不満」を2点、「不満」を1点として集計し平均値を比較。

5. 公共交通に関する考えについて

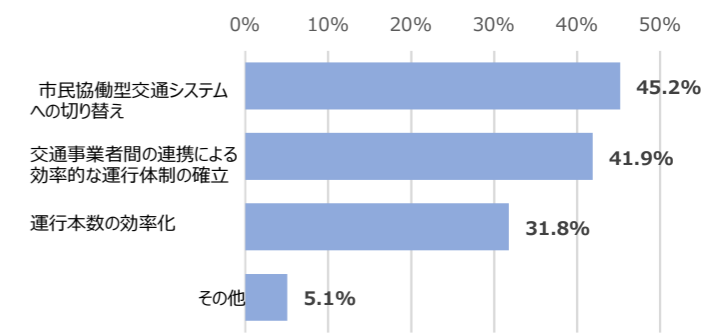
- 右図①は公共交通に関する考えについての設問であり、「公共交通サービスの充実・拡大を図るべき」が4割以上を占めた。
- 下図②今後の公共交通における負担に対する考え方についての設問では、「市の財政負担が増額となっても、サービス維持・向上を図るべき」（48.4%）が前回調査（48.8%）と同様、最も高かった。
- 下図③今後の公共交通におけるふさわしい形に対する考え方では、「市民協働型地域交通システムへの切り替え」（45.2%）が最も高く、次いで、「交通事業者間の連携による効率的な運行体制の確立」（41.9%）が高かった。



図①：公共交通に関する考え



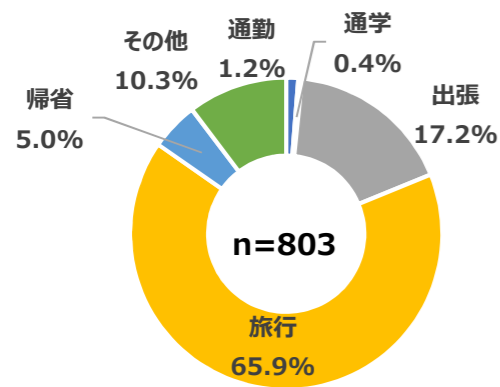
図②：公共交通サービスの維持・充実・拡大による運行経費等の負担増についての考え



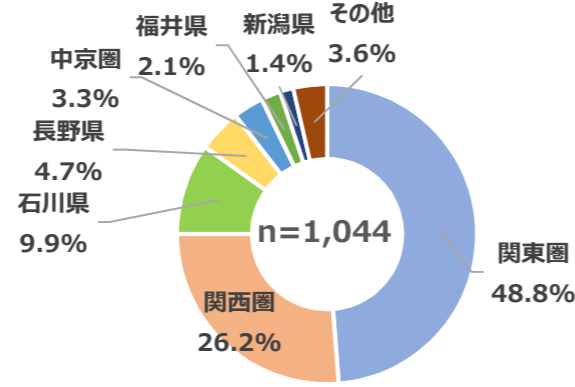
図③：公共交通におけるふさわしい形としての考え

6. 北陸新幹線 新高岡駅の利用について

- 北陸新幹線の利用目的について、旅行で利用する人の割合が6割以上となっている。
- 主な行先は関東圏で約5割を占め、次いで関西方面への利用が多い。



図：北陸新幹線の利用目的

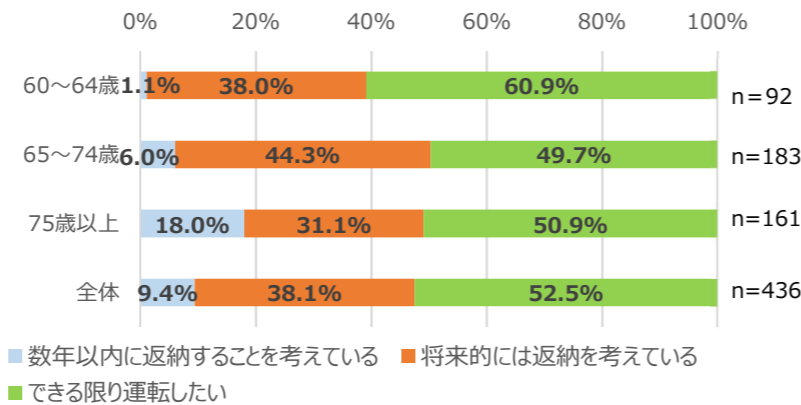


図：新高岡駅からの目的地

7. 免許返納について

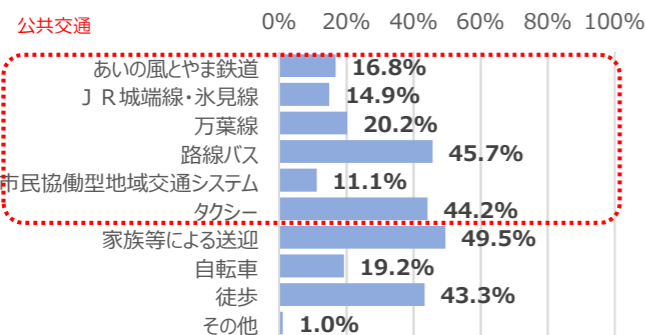
7-1. 60歳以上の方の免許返納意向について

- 免許返納意向については、「数年以内に返納を考えている」と回答する割合が、年齢を重ねるにつれ、増加傾向である。
- 「数年以内に返納することを考えている」と「将来的に返納を考えている」との回答が5割近くある一方、「できる限り運転したい」との回答が5割以上あった。

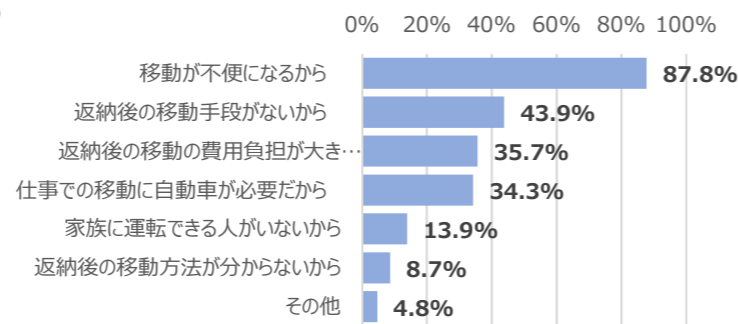


7-2. 免許返納後の移手段

- 「免許返納後の移手段」を見ると、公共交通機関では「路線バス」が45.7%と最も多い。
- 「家族等による送迎」が約50%を占め、免許返納後も車での移動が必要と考えている人が多い。
- 自動車を「できる限り運転したい理由」は、「移動が不便になるから」が87.8%と高く、自家用車の便利さと公共交通機関が比較される傾向にある。



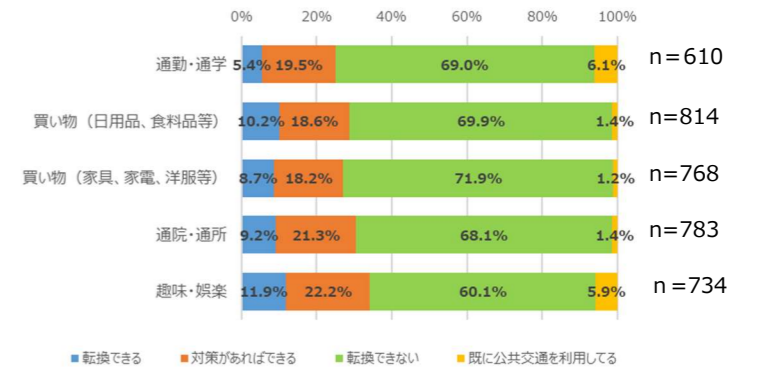
図：免許返納後の移手段



図：できる限り運転したい理由

8. 公共交通の利用への転換について

- 日常程な移動について、公共交通の利用に転換できるかについて、「転換できない」との回答がどの目的別でも6割を超える結果となった
- 一方で、「転換できる」、「対策があればできる」と約3割が回答しており、対策次第では、公共交通の利用に転換できる回答が一定数ある。



9. 公共交通に関する必要な対策について

- 通勤・通学は、「朝タラッシュ時の増便」が最も割合が高く、次いで「公共交通間の乗継ぎ・連絡時間の改善」、「運行ダイヤの見直し・調整」が3割を超える回答があった。
- 「公共交通間の乗継ぎ・連絡時間の改善」と「運行ダイヤの見直し・調整」が、どの目的でも多くの回答があった。

回答者	朝タラッシュ時の増便	昼間時間帯の増便	始発の時刻を早くする	終発の時刻を遅くする	公共交通間の乗継ぎ、連絡時間の改善	運行ダイヤの見直し、調整	運賃の見直し	交通系ICカード等の導入	環境に配慮した車両の導入	施設や車両のバリアフリー	はたき、駅、駐輪場の整備	最寄り駅、電停、バス停の駐車場の整備	公共交通の整備	その他
通勤・通学	60	8	11	16	54	43	17	5	0	2	36	19	3	
買い物(日用品・食料品等)	4	47	4	4	37	41	26	12	6	11	35	17	8	
買い物(家具・家電、洋服等)	4	35	1	3	38	38	25	7	7	9	35	15	9	
通院・通所	9	43	5	2	51	49	25	9	10	11	38	21	11	
趣味・娯楽	10	29	7	20	47	42	32	13	4	6	49	20	8	

図：目的別公共交通に対する必要な対策

10. アンケート結果による公共交通の現状と課題について

- ・外出時における公共交通利用率は11.0%と令和6年度の12.7%と比べて減少し、自家用車の利用率が高い傾向にある。〈項目3〉
- ・また、60歳以上の方の免許返納意向では、約5割の方が「数年以内」、「将来的に」免許返納を考えていると回答していることや、免許返納後の移手段では、公共交通機関での移動を検討している割合が高いことから、公共交通の必要性が高い傾向にある。〈項目7〉
- ・公共交通に関する必要な対策については、「公共交通間の乗継ぎ・連絡時間の改善」と「運行ダイヤの見直し・調整」が全体的に高い傾向にあり、次いで「最寄り駅・電停・バス停の駐車場・駐輪場の整備及び拡張」が高い傾向にあった。〈項目9〉
- ・公共交通利便性満足度では、「運行本数」、「駅周辺の駐車場・駐輪場の量」、「運行時間帯」の順で平均値が低く、項目9と同じ傾向があった。〈項目4〉
- ・今後の公共交通サービスにおける運行経費等の負担増に対する考え方については、「市の財政負担が増額となっても、サービス維持・向上を図るべき」が最も多い一方、「市民が率先して公共交通を利用し、利用者を増やすことで、サービス維持・向上を図るべき」との意見も多く、公共交通に対する当事者意識の高まりが見られる。